

番号	団体名	事業名	事業目的	事業内容
1	一般社団法人 ASIBA	「まきコンペ」などを通じたクリエイティブ領域の若者によるプロジェクト創出と、商店街を中心とした地域振興	<p>①若者の地域参画の不足と地城組織の閉塞感 北区は比較的安価な賃貸住宅が多く立地することを背景に、若年層が多く暮らしている。また近年は旺盛な住宅需要を背景に、子育てファミリー層の流入も増えている。一方、20代前半～30代前半にかけての地域参画は非常に限定的である。若者の地域参画の不足は、災害時のみならず介護やDX対応(個人/町会問わず)など平時でも課題を引き起こしている。そして若者自身にとっても、近年セルフネグレクトによる孤独死が社会問題となったように、地域との接点がないことは大きな課題である</p> <p>②魅力的な都市空間を継承していくためのアイデア不足 北区は、居心地がよくにぎわいのある魅力的な都市空間を有するが、大規模再開発や地域の担い手の高齢化など、社会経済環境が変化していく中で、少しずつ失われつつある。特異な社会条件のもと成立した住商一体型の商店街モデルは経年劣化しており、空き店舗・空き家の発生、住宅の増加によるにぎわいの喪失、大規模商業施設に対する競合優位性の低下といった課題に直面している。</p> <p>課題が複雑化・多元化する現代において、単純な課題解決型のアプローチで解決できる問題はほとんどない。むしろ、個人の内発的動機から始まる創造的なアイデアが、周囲の人を巻き込みながら状況を変えていくことの方が多いただろう。多数のアイデアを集め、地域を巻き込んで議論し、それを実現していくような、より実験的な過程こそが求められている。</p>	<p>■1. まきコンペ&ワークショップ at グレーター田端 ※提出時は「十条駅前商店街」だったが、主管課の面談をもとに変更 概要：田端駅周辺は武蔵野台地の縁にあたり、高さ18mの崖を挟んで複雑な街区が形成されている。ふれあい橋を挟んだ大地の上と下にはそれぞれ商店街があり、また文土村記念館や新設される芥川龍之介記念館、JRの停車場など、北区の地域資源が眠るエリアである。一方、崖の存在により崖下の防災機能向上、そして駅へのアクセシビリティの確保という長年の課題を抱えている。このような田端駅周辺を「グレーター田端」として捉え、商店街を巻き込んで実践型の建築アイデアコンペティション「まきコンペ」を開催する。 日程：検討会議（4月上旬）募集開始（6月1日）AIワークショップ（7月上旬、8月下旬）応募締切（9月末）一次審査会（10月上旬）まきこみワークショップ（10月中旬）公開最終審査（11月下旬） 参加予定者：全国の建築・デザイン系の学生・若手、田端駅周辺エリアの地域プレイヤー 実施場所：東田端ふれあい館</p> <p>■2. まきコンペat暗渠商店街における提案アイデアの社会実装支援 概要：今年度の北区シティプランニング事業助成金で採択いただいた暗渠商店街でのまきコンペ開催に際し、コンペの賞金代わりに実装費用35万円を一般社団法人ASIBAの負担で拠出する。来年度の4月～6月を実装期間とし、6月下旬の実装ウィークに向けて伴走メンター（ASIBAが指定）によるメンタリングを2週に1度、採択プロジェクト向けの3時間程度のプログラムを毎月1度実施する。支援金はプロジェクトの推進のみに用いるものとし、ASIBAがその使途を管理する。 日程：社会実装支援プログラム（4月下旬、5月下旬、6月下旬）、実装ウィークの開催（6月） 参加予定者：今年度暗渠商店街で開催するまきコンペの受賞者向け 実施場所：暗渠商店街各地</p> <p>■3. まきコンペ at グレーター田端におけるアイデアの社会実装支援 概要：上記2と同じ 日程：社会実装プログラム（12月下旬、1月下旬、2月下旬） 参加予定者：全国の建築・デザイン系の学生・若手、田端駅周辺エリアの地域プレイヤー 実施場所：東田端ふれあい館</p>